



令和2年度 学校経営方針

「伝統と進取」 開校146周年

伝統に甘んじることなく、さらに質の高い教育活動に向けて
前進する一年である。

I 本校の教育目標

人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会や地域社会において信頼と尊敬を得られる人間の育成を目指し、健康で自他の人格を重んじ、創造性に富み実践力のある児童を育成するため、次の目標を設定する。

- よく考えてくふうする子ども（重点目標）
- 自主性に富み責任感の強い子ども
- 健康で明るい子ども
- 心ゆたかで思いやりのある子ども

II 学校経営理念

1 教育目標を達成するための目指す学校像

－保護者、地域から信頼され、安心して児童をあずけられる学校－

中和小学校は、開校146周年を迎え、これまでの学校教育のよさや成果を「継承」するとともに、時代や社会の変化に対応できる新しい学校教育の「創造」に努める。

そのために、学校は児童一人一人の「生きる力」を育み、可能性を伸張させる学校でありたい。児童が大切にされ、学ぶ喜びに満ちた楽しい教育活動を教職員・保護者・地域社会が一体となって推進し、「満足度の高い学校」を目指す。

【目指す学校像】

- (1) 一人一人を大事に育てる中和小学校
- (2) 明るく楽しい中和小学校
- (3) 規律あるさわやかな中和小学校
- (4) 学ぶ喜びや誇りのもてる中和小学校
- (5) 安全で安心して通うことのできる中和小学校

2 学校経営の基本方針

- (1) 人権教育：「生命」を大切にし、人権を尊重する教育を推進する。
 - ①児童が認められ、自分に自信を持ち、生きる喜びを見いだせる学校を確立する。
 - 学校教育において、自尊感情や自己肯定感を高めるための教育の充実を図る。
 - ②いじめ、不登校など、児童の多様な課題に学年、学校全体で対応する。
 - 互いに認め合い、ともに学び合う学校づくりを目指す。
- (2) 確かな学力：「学力の向上」を目指し、教育課程を編成・実施する。
 - ①中和学習スタンダードを身につけ、基礎・基本の確実な定着を図る。
 - ②学校生活のきまりを守り、自分から自分で課題解決できる力をつける。
 - ③家庭学習（自学学習）の定着を図る。
 - ④自力解決学習、体験的な学習など指導方法、指導形態を改善する。
- (3) 教育活動：計画的・組織的に実践し、教育目標の達成を目指す。

- ①年間の経営計画を明確にした指導を行い、児童の実態に応じた改善・充実を図る。
- ②教育内容の計画・実践・評価・改善を充実させ、保護者や区民への説明責任を果たせるように教育活動の位置づけを明確にする。
- ③一人一人が各校務分掌主任の立場で、よりよい教育活動を考え、積極的に学校経営に参画する。

(4) 学校や地域：誇りをもって、社会の形成に参画する基礎を培う教育を推進する。

- ①ゲストティーチャーを招聘し、将来の「夢」や「目標」への意識付けをする。
- ②学校や地域の教育環境を積極的に活用し、「歴史と文化」「環境問題」「国際社会」への関心を喚起し、理解を深め実践する教育を推進する。
- ③オリンピックパラリンピック教育を通して、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質を育成する。
- ④日本の伝統文化に関心をもち、英語活動、外国語活動を通して豊かな国際感覚を磨く。

III 学校経営の中期的な目標

1 「鍛える」学校 — 落ち着いた学校生活 —

- ①学校を安全で清潔な教育の場とし、安心して学べる教育環境で児童の心身を鍛える。
- ②教職員全員が、すべての児童を育てる中和ファミリーの意識をもち指導にあたる。

2 「究める」学校 — 授業の改善・充実 —

- ①基礎的・基本的な内容の定着を図り、教師の授業力を究める。
- ②自力解決学習・体験的な学習など学習活動の充実を図り、児童の学びを究める。

3 「品格ある」学校 — 教育公務員としての自覚と誇り —

- ①サービスの厳正に努め、全体の奉仕者としての自覚を高め、品性ある職務を遂行する。
- ②人権尊重の精神を基調に、体罰、いじめ、差別のない学校づくりに努める。

4 「かかわる」学校 — 保護者・地域社会との連携 —

- ①学校が家庭・地域社会と十分な連携を図り、相互理解を深める。
- ②地域教材の開発や地域人材の活用を積極的に推進し、教育活動の充実を図る。
- ③学校公開、学校だより、学年だより、ご案内、掲示板、ホームページの充実を図り、学校情報を積極的に発信する。

5 「安心・安全」な学校 — 健康で安全な学校生活 —

- ①生命尊重、安全・健康について十分な配慮を行い、豊かな教育環境を創出する。
- ②温かさと厳しさの調和のとれた指導で、意欲と自覚を喚起させ模範意識を育む。
- ③地震、風水害、不審者等からの危機回避能力の育成、安全対策や安全点検の徹底をする。

IV 短期経営目標と方策

1 令和2年度の「重点目標」と「目標達成」のための具体的方策 —

(1) [重点目標] **学年・学級経営** 児童が自信を持って健康で安全な学校生活を推進する。

[方策]

- 教職員共通理解のもと、学習、生活のスタイルを明確に、年間を通して身につくまで計画的に基本的学習・生活習慣の定着を図り、規範意識を育む。
- 区意識調査（アイチェック）を活用して児童の学習・生活状況や学校適応の状況、人間関係を把握し、人権教育を通して、いじめ・差別のない学校づくりに努める。
- あらゆる活動で、「自分で、自分から」という自主性を育てる。
- どんな学級を目指すのか、クラス目標立て、明確にして学級経営を行う。
- 4～6月、「中和学習スタンダード」を徹底し、学習する姿をつくる。
- 基本的生活習慣の定着、規範意識を育む具体策を提示し実施する。
- 自立の基礎を養う取組を実施する。
- 道徳・いじめ授業を実施し、言葉遣いに敏感な教育環境をつくる。

- 児童のよさを認め伸ばす声かけ、共に遊ぶなど、「自己肯定感・有用感」を高める。
- 縦割り班活動の自主的な活動の充実を図り、思いやりや責任等の社会性を育む。
- 基本的に外遊びを推進する。
- 7月、1月の学校公開では、いじめ防止授業、道徳地区公開講座を公開する。
長期休業前には路上生活者への認識及び差別をなくす指導を行う。

(2) [重点目標] **学力向上** 教育課程を円滑に実施し、『学力』の向上を推進する。

[方策]

- 基礎・基本の学習の定着、体験的な学習・自力解決学習の重視、自分の考えをもつ、表現力の伸長、自ら学ぼうとする姿を推進する
- 新学習指導要領の円滑な実施と教育課程の改善・充実を図る
- 年間指導計画に基づく授業を実施し、「習得」「活用」「探究」の授業スタイルを確立。
- カリキュラムマネジメントを意識した学習活動を実施する。
- 楽しい授業をつくる。
- 各学年「読む・書く指導」を重点とする。しっかり声を出して音読。文章に慣れ理解力を高める。自分の思いや考えを表現させ、年間を通して掲示する。
- テストのやり方、テストの見直しを重視し、予習・復習の意識を高め、家庭学習の定着を図る。
- 基礎基本の繰り返し学習を通して、学習の定着を図る。
- 言語に興味関心がもてる環境作りを推進する。
- 年2回の読書月間を設定し、各学年に合った読書量を提示する。読書好きの児童を育成するため、調べる学習を実施する。

(3) [重点目標] **授業力向上** 『研究で授業力向上を目指す中和』を確立する。

[方策]

- 校内における研修体制を確立・充実させ、教師の「授業力向上」を目指す。
- 国語・社会・算数・理科を中心とした授業研究を計7回実施する。
- 授業におけるPDCAサイクルを確立し、授業改善を図る。
- 研究では、授業研究の実践を発表会や研究集録にて報告する。
- 校外の研修会（指導教諭の授業研究）などに参加し、積極的に授業力向上に励む。
- 週案簿の質の向上（指導のねらい等）及び授業観察を年3回実施し授業記録をとって授業改善を図る。
- 夏季休業期間に模擬授業を実施し、児童の意欲関心を高める導入の工夫を考える。
- 外国語授業の研修会を開き、教師が自ら授業を実施する。
- OJT研修、若手研、区小研・校外の研修会などに参加し、積極的に授業力向上に励む。

(4) [重点目標] **学びの場・機会拡大** 外部の教育力を活用する。

[方策]

- 学校支援ネットワーク、ゲストティーチャーや出前授業、地域の教育力を活用し、オリパラ教育、学校図書館教育など授業の充実を図り、児童の「生きる力」を育む。
- 行政機関や地域と連携・協力し、地域とともに在る学校として「総合力」を高める。
- 幼稚園、保育園、お年寄りとの交流も実施。

(5) [重点目標] **生き方の教育** 「夢」や「目標」に向けて頑張る姿をつくる。

[方策]

- 各教科において、日本の伝統文化や地域教材に触れ、わが国や地域、我が校への愛着を深める。
- 国際理解教育の活動や英語及びTGGでの体験を通して豊かな国際感覚を磨く。
- 各行事では、目標をもって頑張る姿をつくり、自分の成長を意識させる。
- 「将来の夢」「頑張ったこと」「二分の一成人式」など、各学年が一年間の成果を検証し発表したり、まとめたりする。
- 葛飾北斎、相撲、太鼓などの体験学習を通して伝統文化を知る。